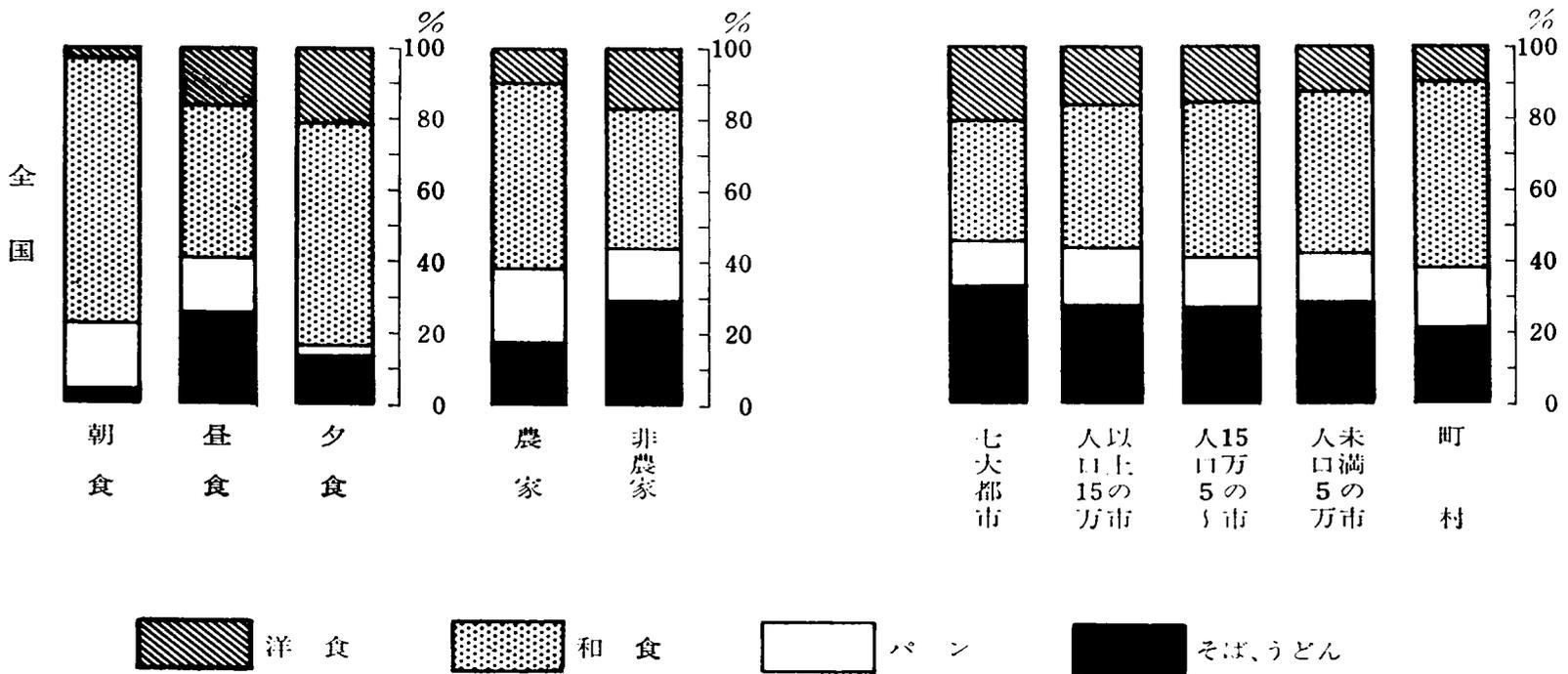


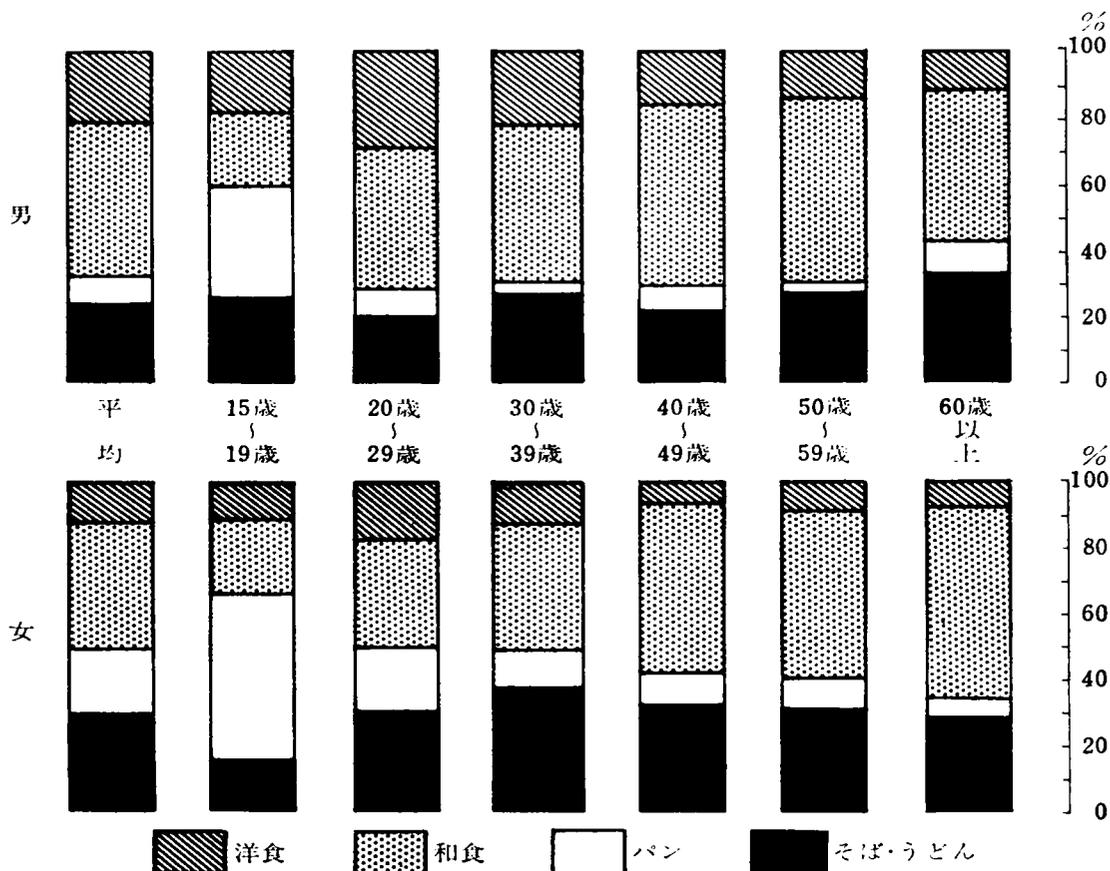
図一7 朝・昼・夕別にみた外食の内容別構成比

図一8 農家・非農家別にみた外食(昼)の内容別構成比

図一9 都市・町村別にみた外食(昼)の内容別構成比



図一10 年齢階級別にみた外食(昼)の内容別構成比



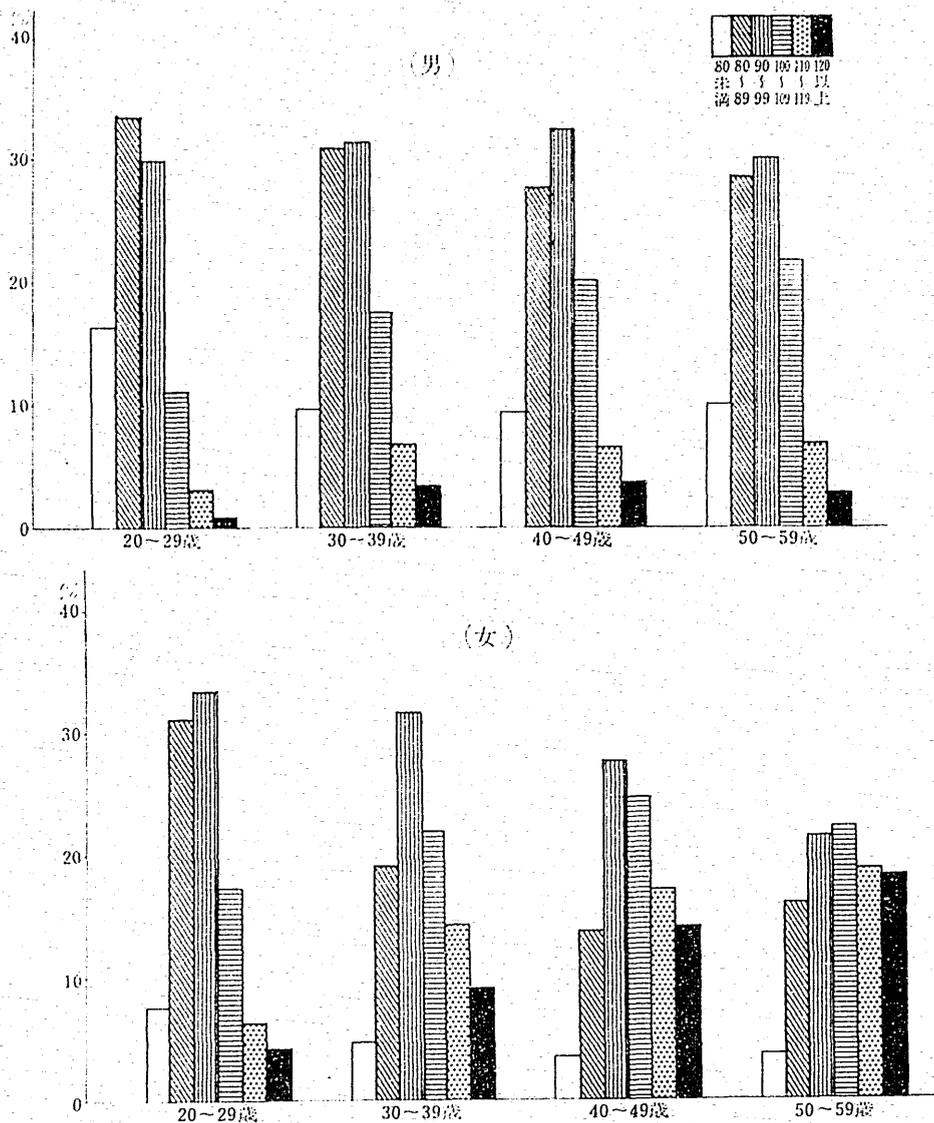
8. ブローカ指数でみた肥満傾向

肥満傾向について、昭和46年度に調査した結果は、次のとおりであった。

肥満やるいその判定には、従来から身長別基準体重、ブローカ指数、ローレル指数、カウプ指数など様々な方法があるが昭和46年度は20歳以上60歳未満の男女につきブローカ指数 $\left(\frac{\text{体重}}{\text{身長}-100} \times 100 \right)$ によって肥満傾向をみた。性別、年齢階級別のブローカ指数の集計結果から次のようなことがうかがえる。

(第123表、図一11)

図一四 性、年齢階級別、ブローカ指数別百分率



ブローカ指数が110以上の肥満傾向にある男性は20歳代で4%、30歳代、40歳代、50歳代ではいずれもほぼ10%で中年以後年代差は、ほとんどみられない。さらにこのうち、ブローカ指数が120以上の、より肥満傾向の強い者は、20歳代で0.8%、30歳代、40歳代、50歳代ではいずれも3%で、やはり同様の傾向がみられる。すなわち男性では肥満傾向にあるものは30歳代に入って10%程度となり以後増加はみられないといえよう。一方女性についてみればブローカ指数が110以上のものが20歳代で10%、30歳代23%、40歳代31%、50歳代37%と年齢がすすむにつれて、増加していることが認められ、さらにブローカ指数が120以上の者は20歳代で4%、30歳代で9%、40歳代で14%、50歳代で18%と年齢が進むにつれて急増している。このように男性と女性では、肥満傾向のあらわれ方に大きな差がみられる。

注) 男性の方が一般的に女性より身長が高いので身長から100を引いた値で体重を除すブローカ指数による判定では、男性は女性にくらべてヤセが多く、肥満が少ないように見える。従ってこの方法で男女間の肥満者の割合を直接比較することは適当でないが、同性で年齢別に比較することは意味があろう。